



静岡県の幼児教育の質の向上を目指して

わっ！ぴょん通信

発行・編集 静岡県幼児教育センター

TEL054-221-3287 FAX054-221-3558

ともだちいっぱい げんきな子 ～地域との交流活動から～

園訪問から
伊豆市立修善寺東二丁目園

心地よい秋空の下、園の近くの畑で、シルバー人材センターと園児との交流事業の一つであるさつまいも掘りが行われました。

会員さんから掘り方の説明を聞き、「こんな大きいのが潜っているよ」と子どもの頭ほどの大きなさつまいもを見せられると、「わー、持たせて」と大歓声。「わくわくしてきたねえ」と言いながら畑の中に入り、手で一生懸命土を掘りました。赤紫色のさつまいもが見えると、「あつたー！。両手で力いっぱいつるを引っ張りました。歯を食いしばって「うーん」。なかなか抜けません。会員さんに教えてもらいながら芋に傷をつけないように周りの土を丁寧に掘っていきます。いくつもつながっているさつまいもは隣の友達と一緒に掘り出します。大きなさつまいもを両手で抱え、「先生、見てー！」「うわー、大きいー！」「たっさつながつてるー！」喜びや驚きの声が畑いっぱい

いにこだましました。「重てえー」「トレーニングみたいなお芋だ」「もつと小さいかと思っただ」等々。「まんまるさんがいっぱい」「こんな長いのがあつたよ。へびみたい」「ハートだ」「ペンギンみたい」と、さつまいもの形を動物などに見立て喜んでいました。子どもの表現や発想は豊かで、眩きを聞き取ることも保育の楽しみです。一人一人の感動の大きさ、想像力、好奇心の広がりなどがうかがえました。



畑の活動のもう一つの楽しみは、土の中から出てくる虫たちです。とかげを見つけた男児は、掌に乗せたり尻尾を持つたりして皆に見せて回りました。不意に目の前に出現したとかげに「うわあー！」と驚きのけぞった会員さんも大笑い。芋掘りを通して地域の方との交流も深まりました。

「ソテナに20箱の大収穫。子ども達が持ち帰り、残ったさつまいもは、会員さん達が収穫した多くの野菜と共に、生きいきプラザで『野菜販売体験第二弾』が行われたとのことでした。春のじゃがいも掘りと販売活動からつながった豊かな体験は、確かな学びへつながります。

青空に輝く太陽の子 ～保幼小の連絡会「フラット会議」公開保育より～

園訪問から
長泉町立長泉幼稚園

長泉町では、令和2年度より保幼小の連携・接続が本格的に始まり、園と小学校の教員が一堂に会する会議（通称フラット会議）を年3回実施しています。今年度からは保育・授業参観を位置づけ、子どもの実際の姿をもとに具体的な教育内容に踏み込んだ協議を行っています。

10月23日、30名余が参加し、長泉幼稚園を会場に第2回フラット会議が行われました。年長組は、6、7人のグループで、間伐材や秋の自然物を使って秋祭りにみんなが楽しめるサッカーゲームの入れ、車のレース場作りに取り組んでいました。的入れゲーム作りでは、廃材や間伐材、ゴムを使って鉄砲を作り、的当て遊びを楽しんでいました。そのうちに、的を通り抜けるゲームに発展し、この日は、30cm位の長さの小枝を三角に組み合わせてゴムやモール、テープ等で接合する枠作りが始まりました。最初は個々に自分で考えた方法で取り組んでいたのですが、ゴツゴツした小枝をしっかりと接合することは一人では難しくなかなかなかうまくいきません。次第に友達の様子が気になり

始め、見たり尋ねたりしながら自分の力でやり抜こうと一生懸命です。どうにかモールを巻き付けて2本をX状に固定したEちゃん、ガムテープで苦心していたRちゃん達に「できた。これどう？モールで留まったよ」と教えました。Rちゃん達はモールと輪ゴムを持って来て、一人が小枝を支え、もう一人がモールと輪ゴムを巻く協力体制で、試行錯誤しながら取り組み、完成させました。粘り強く取り組んだ達成感は大きく、的をくぐり抜けて遠くまで飛ばしさを味わいながら、皆で何回も挑戦してました。協議では、「幼児期からの体験の積み重ねの中で自立心や協同性が育っている」「小学校での表れは園でのこのような活動から育まれてきたことを実感した」等の声が聞かれ、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿に照らし合わせた話し合いが行われました。

第3回は生活科授業参観と協議が行われました。来年度からは、名称を「フラット会議」に変え、さらに研修内容を深めていきます。



元気 チャレンジャー 西幼っ子 ～保育の質の向上に生かす園務支援ソフトの導入～

園訪問から 袋井市立袋井西幼稚園

袋井市は、令和3年度幼児教育 Good Design Award で紹介したとおり、ICTを活用した園務環境の整備や職員の業務改善を進めています。

本年度は園務支援ソフトの切り換えを行うとともに、職員にタブレットとスマートフォンが配布されました。これにより、連絡帳機能、登降園管理機能、帳票管理機能、お便り機能等全ての機能において利便性が高まり、業務改善が進みました。保育ドキュメンテーションの作成時間も短縮し、保護者会等で有効に活用されています。また、新たに導入された午睡チェックセンサーは、乳幼児や職員にとってより安全・安心な環境を生み出しています。

ICT活用は、園内研修の充実に也大いに貢献しています。保育の計画や記録をノートアプリ上で管理し、端末で全職員が共有することにより、みんなで遊びの発展や子どもの育ちを考察することが容易になり、保育改善に役立っています。また、オンラインやオンデマンド研修がいつでもどこでもできることは保育者の主体的な研修を保障しています。

さらに、袋井西幼稚園には、5

歳児の保育室に電子黒板を設置し、その効果的な活用についても研究を進めています。5歳児のクラスでは、「ぶくろいのまちをつくっているよ」の遊びが展開されました。絵本から自分たちのまちに興味をもった子ども達は園外保育でまち探検に出掛け、見えた道路や建物を空き箱やダンボールで作りました。「〇〇は広い道路の隣にあった」形は四角だったね「ぼくの家はこの辺りかな」など、友達と話し合いながら作りましたが、時には意見がぶつかれることもありました。そんな時、保育者が電子黒板に航空写真を映し出すと、子ども達は建物や道路の位置や形を確認しました。また、多方向から見える面白さに加え、園外保育では気づかなかつたことも発見することができ、まちづくりへの思いを一層膨らめることができました。

直接的な体験が重視される幼児教育の現場において、子どもの遊びの中にどのようにICTを取り入れていくか、これは、これからの保育において検討すべきことのひとつとなるでしょう。袋井西幼稚園では、公開保育参観の折にも、保育におけるICT活用について協議を重ねています。



さわやかさん インタビューコーナー

藤枝市こども課
保育統括担当参事 河村明子

1 これまでの経歴と現在の担当・内容を教えてください。

藤枝市の公立保育園で30年間保育士として勤務し、その後、こども課育児サポーターとして、産後の親子への訪問支援で家庭にいる親子のサポートをしてきました。そして、今年度より保育統括担当参事として、市全体の保育の質の向上を目指して業務に取り組んでいます。現在は主に小規模園の指導監査を担当しながら園を訪問したり、各園への県幼児教育センターの訪問支援に同行させていただいたり、各園の行事やイベントの際に園訪問させていただいたりするなどしながら、各乳幼児施設の先生方との繋がりができるよう努めています。現場の声に届くセミナーの計画や職場環境への働きかけなど「働きやすい職場づくり事業」にも携わっています。



2 藤枝市の乳幼児教育の特色について教えてください。

藤枝市には、施設類型が様々な70園の乳幼児施設があります。このうち小規模園が32園と多く、きめ細やかな保育環境づくりの推進が特色です。

また、発達支援の面においては、「途切れない発達支援をめざして」を基本理念の元、こども発達支援センターを中心に支援者向けの各種講座の開催や支援の必要な子どもへのサポートファイル「そらいろ」の活用などを通し、小学校等の関係機関との連携を大切にしています。

3 河村参事にとって保育の魅力とは何でしょうか？また、印象的な乳幼児の遊ぶ姿がありましたら教えてください。

保育の魅力は月並みですがやっぱり「日々変化する子どもと笑顔で生活する楽しさ」です。一瞬一瞬で見せるこどもの表情に胸が踊ります。0歳児は、おもちゃ一つにしてもすぐに興味をもつ子もいれば、「なにこれ」と不安そうに見ている子もいます。まずは興味津々の子がいろいろな感触を確かめ遊び出し、その楽しさを感じると「どう見て！すごいでしょ！」とばかりに満面の笑みを浮かべます。その子に共感すると、それを見て安心した他の子たちも次々に遊び出します。小さな0歳児でも子どもと子どもの繋がりで遊びと笑顔が波及していく、そんな瞬間がたまらなく好きです。